

# いなかおか II



2000 No.138

東京都世田谷区歯科医師会会報



## 東南アジア旅行の知的楽しみ方

「インド化」された国々へ 遺跡の旅 -X

下馬部会 斎藤 賢一

インドのルーツを訪ねる旅も一応終わりにして、再び東南アジアに戻りたいと思います。今回はベトナムの旅です。ベトナムには過去2回行きましたがいずれもカンボジアへ入るための寄港地で、サイゴン近郊の観光しかしていません。10年ぶりに南部から中部のヒンドゥー遺跡を見学いたしましたので、そのお話をしたいと思います。近年とみにベトナム旅行がクローズアップされています。特に女性に人気があり、女性雑誌の特集が目立ちます。ベトナムにはとても美しいビーチがあり、食べ物も美味しく、女性好みの雑貨がとても安く手に入りますし、長い間フランスの統治下にあったためフランスの文化と中国系のベトナム文化が上手くミックスしてとてもエキゾチックなところもお気に入りの一因であると思います。今回見学するヒンドゥー遺跡は現在のベトナムを支配しているキン（ベト）族が建立したのではなく、今は中部の海岸に少数残っているチャム族が建立したものです。このチャム族は2世紀末から15世紀までベトナムの中部にチャンパ王国を築きました。キン族が北の中国系なのに対しチャム族はインドネシア系の海洋民族で肌の色や顔立ちが違い、年寄りには独特の民族衣装を着ています。遺跡の旅Ⅰにも書きましたがここは海のシルクロードの重要な地点でとても早くからインド化され、現在8～15世紀のヒンドゥー寺院が海岸線に沿って残っています。それではサイゴンを出発して国道一号線を東に向かって東シナ海にぶつかったところにあるとても美しい港町ファンティエットへいきましょう。

この町はヌックナム（魚醬）の名産地でいたるところでヌックナムやえびせん、するめなどの乾物を売っています。ここに現存する最古の

遺跡ポー・ハイ遺跡とポー・ダム遺跡があり共に8世紀の建立です。チャンパ遺跡の特徴は海を見おろす丘に建っているものが多いこと、レンガで造られ彫刻もレンガに直接彫ってあることです。従ってレンガは砂岩などと比べて耐久性に乏しいため、崩壊が著しく修復も大変です。ポー・ハイ遺跡も海を見おろす丘の上に建っており南シナ海がよく見えます（写-1）。



写-1 「ポー・ハイ」ファンティエット

ポー・ダム遺跡はここから車で1時間ほどの所にあるはずですが、途中から車が通れなくなり、農道を30分ほど歩き更に道がなくなり畑の中を横切ってやっと着きます。山の斜面に埋められるようにして建てられたこの遺跡は崩壊が進んでいますが、レンガに彫られた彫刻はなかなか見事でした（写-2）。

とても美しい海岸線に沿って国道を次の遺跡の町ファンランに向かいます。途中、海の家みたいなドライブインでベトナムコーヒーを飲みます。店から続いている砂浜は真っ白でゴミ一つなくとても透明度の高い素晴らしい海岸です。ここに目を付けた海外資本の高級ビーチリゾートがファンティエットからこれから行くニャチャンの間にいくつか出来ました。これからどんどん増えていくと思われます。ファンラン





写-2 「ポー・ダム」 トイフォン

の町にはチャンパ王国末期の14～15世紀に建てられたポー・クロンガライとポー・ロメの遺跡があります。ポー・クロンガライは修復されたためよく残っています。主祠堂入り口の破風にはチャンパ独特の踊るシヴァ神(ナタラージャ)が彫刻されており、内部のリングには王の姿をしたシヴァ神の顔が付いています(写-3)。



写-3 「ポー・クロンガライ、ナタラージャ」 ファンラン

この遺跡の周囲にチャム族の村があります。ファンランの近郊にもうひとつ7世紀のホアライ遺跡があり、3堂並んで建っていましたが、中央堂は完全に崩壊して今は2堂が残っています。ここの装飾は素晴らしく、屋根にはガルダの彫刻が残っています(写-4)。

ベトナムの朝食はフォー(米で出来た麺)にするかパンにするかとても悩みます。ベトナムはフランス領でしたのでフランスパンが全国各地でも大変美味しく中にソーセージや野菜や香



写-4 「ホアライ、ガルダの彫刻」 ファンラン

草をいれて食べるとこたえられません。現地の人はそのままのフランスパンにヌックマムをつけて食べます。これがまた結構いけます。今日はニャチャンからクイニヨンへ向かいます。ニャチャンは大きな港町で、入り江の丘の上にポー・ナガル遺跡があります(写-5)。



写-5 「ニャチャン遠望」 ニャチャン

ここは8～13世紀の間に建立された聖域で急な階段を登ると、入り江が見渡せるとてもよく整備された境内に5つの建物が残っており、主祠堂の内部にはポー・ナガル女神(シヴァの神妃と同一化)の像が安置されています(写-6)。

主祠堂の裏に小さな副祠堂があり南側の壁にはガルダ、北側には獅子、西側にはインドラ神が彫刻されておりチャンパの寺院としては大変めずらしいものです。ニャチャンからクイニヨンへは海岸に沿ってとても険しい峠を越えなければなりません。クイニヨンはヴィジャヤと呼ばれたチャンパ王国があった地域で、10～13世紀の間に建立された8つの遺跡があります。峠を越したトウイホアという港町の丘の上に雁塔があります。ここの遺跡に着いたのは夕方なのでたくさんの人々が夕涼みにこの塔に来てお



写-6 「ポー・ナガル、ポーナガル女神」ニャチャン

りました。多くのチャンバ遺跡は海のそばの丘の上であり、海からの風がとても気持ちよいので遺跡は涼を求める人たちでにぎわいます。銀塔はクイニヨン近郊の丘の上であり保存状態も良く、楼門、主祠堂、宝物庫、碑文庫、と4つの建物が残っている貴重な遺跡です(写-7)。

金塔も丘の上にあります。ビンラム遺跡は水



写-7 「銀塔」クイニヨン

田のあぜ道を30分以上歩いた環壕集落の中であり、着くのに大変でしたが田植えを終わった田圃の緑がとてもきれいでした。象牙塔は3塔並んだクメール建築の影響を強く受けた遺跡で12～13世紀の間の緊密な国交関係があったと思われます。チャンバの遺跡めぐりは海に沿ってあるのでいつも新鮮な海鮮料理が食べられます。エビやカニはどこでも同じですが問題はつけダレです。ヌックマムが基本ですがこれが店によって微妙に違い、更に小エビのしおからやカニ

味噌、ピーナッツ味噌、タマリンドなどが入ってその店独特の味になります。肉料理も特に内臓料理が新鮮でお勧めです。ベトナム料理の特徴は必ず生野菜がお皿に山盛りで出てくることです。ナス、ニンジン、モヤシ、ニンニクはいうに及ばずマンゴー、パパイア、バナナなど熟していない青いものをスライスして食べます。もちろんコリアンダー、ミントなどの香草も沢山出てきます。ですからとってもヘルシーで消化にも良いのです。ここからダナンに向かう途中にクアンナム遺跡群があり9～12世紀の4つの遺跡があります。クオンミー遺跡は3塔から成り、とても装飾が素晴らしくクメールとジャワの影響があるといわれています。チェンダン遺跡も3塔から成りとてもよく整備された境内にあります。ここで注目されるのは基壇の彫刻でこの基壇は砂岩で出来ておりここにアプサラ(天女)や動物の素晴らしい彫刻が残っております(写-8)。

ドンジュオン遺跡は唯一の仏教遺跡で9世紀



写-8 「チェンダン、基壇の彫刻」タムキ

末に建立された大遺構で東南アジアで最も重要な遺跡でしたが、歳月の経過と度重なる戦争によって破壊され壁の一部しか残っておりません。

今夜はダナンではなくホイアンのビンフンホテルに泊まります。ホイアンの町は世界遺産に登録されておりとても古い町並みが今に残っており、このビンフンホテルも150年前の中国式家屋を改装したものです(写-9)。

この古い町並みが残る旧市街は車の進入禁止です。ホイアンの町の魅力はこのように古い家屋を改装して内部はレストラン、バー、インターネットカフェなどになっておりますが景観を





写-9 「ピンフンホテル」 ホイアン

損なわず、とてもよくマッチしていることです。そして夕暮れになるとたくさんの提灯に明かりがともりとても幻想的ですし、早朝薄明かりの中、町が動き始める時間帯も捨てがたいので是非2泊はしましょう。さていよいよ今回のハイライトであるミソン遺跡とダナンのチャンバ博物館へ行きます。ミソン遺跡は4～12世紀までに建立された70余の塔堂を擁するヒンドゥー教の聖地であります。四方を山で囲まれ南に聖山マハーバルヴァタがそびえる盆地の中央にあり、どこか俗世とは異なった神霊な緊張感を感じさせる場所です。ここへはホイアンから車で1時間、山の中へ入って行き、そこで車を降り釣り橋を渡って今度はジープでこぼこ道を10分ほど走り更に5分ほど歩くといきなり視界が開けて聖山マハーバルヴァタと遺跡群が現れます。この遺跡群は周囲2kmほどの小川に囲まれた盆地に10グループに分かれて建っています。ほとんどの遺跡は崩壊がひどく、特にベトナム戦争中解放軍がここを本拠地にしていたため米軍の爆撃にあい遺跡のかなりの部分が崩壊されてしまいました。まず一番保存状態が良く重要なグループC,B,Dを見学します(写-10)。

主祠堂、楼門、矩形房、宝物庫、聖水庫が残っており、主祠堂や宝物庫には素晴らしい文様が、壁面には祈る女性像が彫刻されています。ここの反対側にグループAがありますが東南アジア建築の傑作の一つと言われた主祠堂は空爆で完全に破壊され今は基壇の一部が残っているだけです。ここから少し歩いたところにグループGがあります。ここも基壇しか残っておりませんがこの基壇にカーラ(鬼面)の彫刻があり



写-10 「グループB,C,D」 ミソン

ます。ここから小川をわたって更に進むとグループE,Fがあります。ここもほとんど空爆によって破壊されてしまっています。境内には瓦礫の間にナンディ(牛)やドゥパラパーラ(門神)、が寂しそうに立っています。どの場所からも聖山マハーバルヴァタが眺められ小さな小川が張り巡らされたこの地形は聖地独特の雰囲気を感じられ、ひがな一日木陰でボーッとしたいのですが時間がなくてダナンに向かいます。チャンバ博物館はダナン市の港のすぐ前にあり、フランスの研究者によって集められた国宝級の彫刻を窓のない吹き抜けのコロニアルな建物の中に展示してあります。内部は9つの時代様式に分けられ、陳列ケースもなくすぐ手の届くところに展示され写真撮影も自由です。ミソンやドンジュオンはもとよりニャチャンやファンランで訪れた遺跡から出土されたものが沢山あります(写-11、12)。

ここはカンボジアのプノンペン国立博物館とともに東南アジアのヒンドゥー美術の宝庫です。疲れたのでプルメリアの甘い香りがたゆたう中庭のベンチに座っているととうとうときました。

70年安保世代の私にとってはベトナム戦争は避けて通れない問題です。今回の旅行で訪れた遺跡のあたりはほとんど戦場でしたが私の目で見える限りミソンの遺跡を除けば、戦後25年戦争の爪痕は全くありませんでした。町にはアメリカ製品や韓国製品が沢山目につきます。ドイモイ(刷新)政策によりとても活気に満ちています。しかし私がはじめて訪れた1988年のことはいまでも鮮やかに思い出されます。当時入国は